

平成 23 年度 市政運営会議 議事概要

日時	平成 23 年 11 月 14 日 (月) 14:00～14:30								
議題	市営住宅ストック総合活用計画の改定について								
出席者	高島市長、山崎副市長、渡邊副市長、大野副市長、 総務企画局長、理事、財政局長、住宅都市局長、理事 他								
決定事項	○市営住宅の維持更新に関する中・長期の方向性 (1)昭和 40 年代を中心としたストック(7,000 戸) 特に老朽化が進行し居住水準も著しく低いため、耐用年数を待たずに建替 (2)昭和 50 年代前半を中心としたストック(9,000 戸) 長寿命化・住戸改善等により耐用年数まで活用 (3)昭和 50 年代後半以降のストック(9,000 戸) 計画修繕の充実により長寿命化を図り、耐用年数まで活用 ○「市営住宅ストック総合活用計画」の改定内容 (1)計画期間 平成 23 年度～平成 32 年度(10 年間) (2)整備戸数の目標 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">①建替事業</td><td style="width: 50%;">約 3,500 戸</td></tr> <tr> <td>②改善事業</td><td>約 3,400 戸</td></tr> <tr> <td>③耐震化事業</td><td>約 4,600 戸</td></tr> <tr> <td>④計画修繕</td><td>約 400 棟 (屋上防水、外壁改修)</td></tr> </table> (3)基本的な方向性 ①ユニバーサルデザインの導入 ②耐震化の推進 ③事業費縮減と財源の確保	①建替事業	約 3,500 戸	②改善事業	約 3,400 戸	③耐震化事業	約 4,600 戸	④計画修繕	約 400 棟 (屋上防水、外壁改修)
①建替事業	約 3,500 戸								
②改善事業	約 3,400 戸								
③耐震化事業	約 4,600 戸								
④計画修繕	約 400 棟 (屋上防水、外壁改修)								
主な意見	○これから高齢者、子ども、障がい者を見守っていく体制を作っていく上で、関係局や地域の方々とこれまで以上に連携し、ソフトとハードが一体となった取組を進めていくことが必要。 ○アジアの大都市の高齢化のモデルケースとすることを検討してはどうか。 ○建替の際は、高齢化など地域課題に対応する機能の導入や先導的プロ								

ジェクトの実施地区として活用するなど、関係部局と連携して事業を進めていただきたい。

○ユニバーサルシティ福岡実現のためにも、市営住宅のユニバーサルデザイン導入の推進及び地域拠点づくりを積極的に進めていただきたい。

○今後の市営住宅の大量更新を着実に実行できるよう、さらなる事業費の縮減や平準化、国費や余剰地売却等による財源確保などにしっかりと取り組むとともに、将来的な管理戸数の見直しについても、検討を進めていただきたい。

○売却用地の活用については、本計画に基づいて高齢者などの福祉の視点をもって取り組んでいただき、具体的な事業の実施にあたっては、保健福祉局とも、これまで以上に緊密な連携を図っていただきたい。

○ユニバーサルデザインの導入にあたっては、建物の共用部分や敷地内の通路などにも取り組んでいただくとともに、団地内外の歩行者の移動のしやすさを高めるなど、面的整備を活かした整備に取り組んでいただきたい。

○既存住宅の建替えについては、セーフティネットの観点から、良質な住宅が常に一定量安定して確保できるよう整備を進めていただきたい。